

財 団 報

Astellas Foundation for Research on Metabolic Disorders

2015.9 No.8

目 次

ご挨拶	理事長 児玉 龍彦	1
I 平成 26 年度事業報告		2
1. 年間の経緯		2
2. 事業について		4
1) 助成事業	i) 研究助成金、ii) 海外留学補助金	4
2) 研究報告会		8
3) 表彰 (最優秀理事長賞、竹中奨励賞、優秀発表賞)		9
4) 講演 (特別講演、竹中奨励賞受賞講演)		10
5) 交流会		11
6) 第 44 回助成研究報告集		11
3. 会計報告		12
II 平成 26 年度最優秀理事長賞・竹中奨励賞・優秀発表賞受賞者、研究助成金・海外留学補助金交付者からのお便り		13
最優秀理事長賞	中川 勇人、西田 基宏	15
竹中奨励賞	丸山 健太	17
優秀発表賞	高橋 弘雄、林 悠、松井 広	18
研究助成金	有澤 美枝子、有本 博一、落合 恭子、香山 尚子、川内 敬子、 匂坂 敏朗、佐藤 莊、宍戸 恵美子、津田 誠、豊島 文子、 西山 伸宏、任 書晃、濱島 義隆、林 崇、藤田 雅代、堀 正士、 南 敬、宮塚 健、宮成 悠介、横田 浩章	21
海外留学補助金	井原 涼子、國本 博義、春原 光宏、住田 (今井) 光穂、多田 智、 塚原 達也、恒松 雄太、中島 江梨香、光石 陽一郎、森川 洋匡	41
III 財団概要		51
1. 沿革		51
2. 目的		51
3. 事業内容		51
4. 組織と人員		52
5. 評議員・役員・学術委員・職員名簿		53
6. ご退任役員等		54
設立趣意書		55
IV ご寄付の報告とお願い		56
平成 26 年度の財団トピックス		56
編集後記		57

公益財団法人アステラス病態代謝研究会

注記

- ◆ この財団報は、平成27年（2015年）6月6日開催の平成27年度第1回定例理事会を経て、6月22日開催の平成27年度定時評議員会で承認された「平成26年度事業報告および収支報告」に基づいて、本財団の平成26年度（2014年4月1日～2015年3月31日）の事業内容を取りまとめ、発行するものです。

生命科学の転換に世界で立ち会ってください ～新しい海外留学助成の公募にあたって～

児玉 龍彦

公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 理事長
東京大学 アイソトープ総合センター センター長
東京大学 先端科学技術研究センター システム生物医学 教授



アステラス病態代謝研究会は、海外に向かう研究者への助成金を2回にわたって増額し、当初50万円をまず200万円とし、今年から最大400万円としました。この狙いは、学生としての留学ではなくプレーヤーとして世界で活躍する研究者の数を増やそうということです。

その裏には大きな危機感があります。21世紀の生命科学では、シークエンサーによる核酸の配列決定が加速化し続けているのをはじめ、イメージング、質量分析など計測が急速に進歩しています。臨床情報も、電子化が進み、ビッグデータとして多数のあいまいな情報を扱う科学が急速に進んでいます。

統計学も、従来の母数を固定的にみるフィッシャー統計に変わって、より計算量が膨大でモデルもサンプリングも注意深さを要する、尤度（または母数）を変数とみるベイズ統計に移行しています。しかし、我が国の医学界では、Googleやアマゾンのような、ベイズ推計をもとにした情報理論を理解し実装できる人がほとんどいないのが現実です。

具体例をあげます。我が国が「タンパク質3000」などと結晶化を数やればいとしていた間に、世界は変わってしまいました。クライオ電子顕微鏡でタンパク質の数万のぼやけたイメージ解析で解像度が2.2Åまで高まり、全く新しい原子レベル構造決定法が生みだされてきました（文献1）。これは電子顕微鏡のディテクターの改良もあるのですが、決定的なのはベイズ理論を用いたイメージ解析の情報理論の進歩です（文献2）。

2013年のノーベル賞のカープラスらの分子動力学によるタンパク質の動きのシミュレーションと、今回のクライオ電子顕微鏡による構造決定を結びつければ、分子標的薬の設計が結晶なしに可能になり、薬作りは激変します。生物学の複合体や超分子構造の研究の壁も破れます。

一方、クライオ電子顕微鏡でのデータ解析は失敗論文の山でもあります。IP3受容体のクライオ電子顕微鏡による構造決定では、当初の3報は4報目で全て否定されました。イメージ解析の適用の難しさがあります。ベイズ理論を理解していないと、ハーバード大のグループのクライオ電子顕微鏡論文のように「ノイズからアイシユタインの顔を見る」と痛烈に批判されるものもでています（文献3）。このヘンダーソンの批判文献は、専門外の方もぜひご一読ください。

こうした情報科学の進展は、これまでの国策レベルの巨大施設の考え方も変えています。これまでの1,000億

円レベルの放射光施設に比べ、クライオ電子顕微鏡は10億円以下の施設で可能です。分子動力学も専用計算機は「京」のような1,000億円単位でなく10億円程度で、施設費は百分の一になります。クラウドでの利用など、もっとコストダウンが進むでしょう。

我が国では、クライオ電子顕微鏡でタンパク質の原子レベルでの解析をおこなう単粒子解析は軌道にのっていません。我が国で今から、そうした施設を整備するのはもちろんですが、ケンブリッジでもNIHでもマックスプランクでも、スタンフォードでもクライオ電子顕微鏡をやっている研究室に飛び込んでチャレンジする研究者がいることが大切です。

本財団の留学助成はたった10名しか枠がありませんが、200名を超える応募がありました。しばしば、「近頃の若いものは外国へ行く覇気もない」、ひどい場合には「ウォッシュレットのない国に行きたがらない」というような乱暴な議論がありますが、そうした議論を一蹴する競争率の高さです。

私個人の意見としては、この倍率では、日本でも出来る研究は残念ながら後回しです。また従来の自分の研究室の課題を引っぱっただけのものも優先度が低くなります。世界の中でトップの、人類の知識の最前線に立つ研究、しかも日本では出来ない研究の応募を優先し、夢を持った研究者の挑戦を応援します。誤解のないように付け加えますと、本財団の選考委員にはさまざまな領域の現状に詳しい専門家がいますので、もっと幅広い課題からの応募も、もちろん歓迎で、厳正かつ真剣に審査されます。

我こそは、と思う研究者は、奮って応募してください。同時に世界の学問の進展を注意深く見つめて、偽物でなく本物を見る目を準備してください。

文献1: 2.2 Å resolution cryo-EM structure of β -galactosidase in complex with a cell-permeant inhibitor.

Bartesaghi A, Subramaniam S, et al. Science. 2015 Jun 5; 348(6239):1147-51.

文献2: RELION: implementation of a Bayesian approach to cryo-EM structure determination.

Scheres SH. J Struct Biol. 2012 Dec;180(3):519-30.

文献3: Avoiding the pitfalls of single particle cryo-electron microscopy: Einstein from noise.

Henderson R. Proc Natl Acad Sci U S A. 2013 Nov 5;110(45):18037-41.

I 平成26年度事業報告

1 年間の経緯

平成26年（2014年）

- 4月 1日 平成26年度研究助成金・海外留学補助金の応募要領公開（財団ホームページ）
（募集期間：平成26年4月1日～6月15日）
- 6月 7日 第1回定例理事会
- 平成25年度事業報告、収支報告の件
 - 任期満了に伴う次期理事・監事推薦の件
 - 任期満了に伴う学術委員選出の件
 - ⇒重任24名：稲葉俊哉、井上将行、今井由美子、上杉志成、上田啓次、大嶋孝志、小川佳宏、尾崎紀夫、笠井清登、熊ノ郷 淳、後藤由季子、佐々木雄彦、塩見美喜子、高柳 広、竹居孝二、徳山英利、根岸 学、舩森直哉、南 雅文、三輪聡一、柳田素子、山下敦子、山本一夫、若槻壮市の各氏
 - 新任4名：浦野泰照、糸 昭苑、中澤 徹、別役智子の各氏
 - 計28名を承認
 - 事務局長選任の件
 - ⇒新事務局長（茅切 浩氏）を承認
 - 平成26年度選考委員選任の件
 - ⇒選考委員候補者39名（アステラス製薬関係者を除く理事+学術委員）全員を承認（理事は定時評議員会の承認が前提）
 - 研究報告会での研究成果発表者相互投票の件
 - 平成26年度定時評議員会招集の件
 - 理事長、専務理事 業務執行報告の件
- 6月15日 研究助成金、海外留学補助金申請締切
⇒応募件数：研究助成金611件、海外留学補助金184件
- 6月23日 定時評議員会
- 任期満了に伴う次期評議員選任の件
 - ⇒重任5名：相川直樹、長嶋憲一、中村正彦、野木森雅郁、野田哲生の各氏
 - 新任5名：大隅典子、岡島悦子、須田年生、土井健史、長澤寛道の各氏
 - 計10名を承認
 - 任期満了に伴う次期理事・監事選任の件
 - ⇒理事重任9名：内田 渡、小川久雄、堅田利明、門脇 孝、倉智嘉久、児玉龍彦、後藤由季子（学術委員兼任）、中里雅光、藤井信孝の各氏
 - 理事新任5名：一條秀憲、大谷直子、袖岡幹子、竹内 誠、中山俊憲の各氏
 - 計14名を承認
 - ⇒監事重任1名：大山悦夫氏、新任1名：大谷 剛氏の計2名を承認
 - 平成25年度事業報告、収支報告の件
 - 平成26年度第1回定例理事会報告の件
 - 若手研究者の海外留学の本財団としての支援策についての意見交換
- 第1回臨時評議員会
- 評議員会長選定の件
 - ⇒野木森雅郁氏を評議員会長に選定

- 6月30日 第1回臨時理事会（書面開催）
 - 代表理事（理事長）、業務執行理事（専務理事）選定の件
 ⇒ 児玉龍彦氏を代表理事に、内田 渡氏を業務執行理事に選定
- 7月1日 臨時学術委員会（書面開催）
 - 学術委員会長選定の件
 ⇒ 後藤由季子氏を学術委員会長に選定
- 7月4日 臨時選考委員会（書面開催）
 - 選考委員会長選定の件
 ⇒ 門脇 孝氏を選考委員会長に選定
- 8月1日～31日 選考委員による研究助成金・海外留学補助金申請書の個別評価
- 9月15日 財団報No.7（平成25年度財団活動のまとめ）発行
- 10月18日 選考委員会
 - 平成26年度研究助成金および海外留学補助金交付候補者選出・交付総額の件
 ⇒ 平成26年度研究助成金交付候補者50名、交付総額1億円および海外留学補助金交付候補者10名、交付総額2,000万円を決定し、理事会へ答申。
- 第2回定例理事会
 - 平成26年度研究助成金および海外留学補助金交付候補者・交付総額の件
 ⇒ 平成26年度研究助成金および海外留学補助金の交付候補者と交付総額に関する選考委員会の提案を承認
 - 優秀発表賞試行の経緯と今年度の実施要領の件
 - 雑誌「選択」の記事に関する理事長見解の件
- 第45回研究報告会
- 11月28日 第2回臨時理事会（書面開催）
 - 後任監事候補推薦の件
 ⇒ 大山悦夫監事の後任監事候補として古川康信氏を推薦することを承諾
 - 「後任監事選任の件」を議案とする臨時評議員会招集の件 ⇒ 承認
- 12月5日 第2回臨時評議員会（書面開催）
 - 後任監事選任の件
 ⇒ 大山悦夫監事の後任者として古川康信氏を承認
- 平成27年（2015年）**
- 2月7日 第1回学術委員会
 - 海外留学助成事業の改革の件
 - 平成27年度海外留学助成事業の実施要領の件
 - 平成27年度研究助成事業の実施要領の件
 - 学術委員候補者の件
- 第3回定例理事会
 - 平成26年度事業報告・仮収支報告（平成26年4月1日～12月31日）の件
 - 平成27年度事業計画・収支予算書の件
 - 海外留学助成事業の改革の件
 - 平成27年度海外留学助成事業の実施要領の件
 ⇒ 会議で出されたコメントについてワーキング・グループと理事長でさらに検討することを条件に承認
 - 平成27年度研究助成事業の実施要領の件
 - 平成27年度研究報告会の件
 - 理事長、専務理事 業務執行報告の件
 - 学術委員候補者の件
- 3月31日 第44回助成研究報告集発行

2 事業について

1) 助成事業

i) 研究助成金

テーマを「疾患の解明と画期的治療法の開発に資する研究」と定め、平成26年4月1日～6月15日の期間に募集を実施しました。611名（女性114名）の応募があり、各選考委員による個別評価を経て、平成26年10月18日開催の選考委員会にて交付候補者が選出され、同日開催された理事会で交付者50名（女性14名）が決定されました。本決定に基づき、総額1億円を11月から順次交付しました。

ii) 海外留学補助金

テーマを「生命科学領域（有機合成化学、天然物化学を含む。）」とし、「平成26年5月から平成27年4月の期間に留学を開始し、初めて1年以上留学する研究者」を対象として平成26年4月1日～6月15日の期間に募集を実施しました。184名（女性17名）の応募があり、平成26年10月18日開催の選考委員会で交付候補者10名が選出され、同日開催された理事会で内定者10名が決定されました。

なお、その後、内定者の中に①日本学術振興会海外特別研究員としての採用内定、②他の民間財団から200万円を超える助成金交付が決定したとの理由で本財団からの交付を辞退される方が8名出ました。その都度、次点者を順次繰り上げ、平成27年2月末に10名（女性3名）の交付者を最終的に確定し、年度末までには総額2,000万円を交付しました。

平成26年度研究助成金・海外留学補助金公募および交付実数

研究助成金・海外留学補助金申請者数・交付者数・交付金額

項 目	申請者数 (女性)	交付者数 (女性)	交付金額
			研究助成金1件：200万円 海外留学補助金1件：200万円
研究助成金	611名 (114名)	50名 (14名)	10,000 万円
海外留学補助金	184名 (17名)	10名 (3名)	2,000 万円
総 計	795名 (131名)	60名 (17名)	12,000 万円

平成26年度（第46回）研究助成金交付者一覧

テーマ：疾患の解明と画期的治療法の開発に資する研究（50名）（五十音順・敬称略）

No.	氏名	所属機関（交付時）	研究テーマ
1	有澤 美枝子	東北大学大学院 薬学研究科 分子設計化学分野	医薬品合成のための可逆的遷移金属触媒フッ素化反応
2	有本 博一	東北大学大学院 生命科学研究所 分子情報化学分野	個体の寿命を制御する内因性分子の研究
3	池田 真理子	神戸大学大学院 医学研究科 こども急性疾患学	先天性肺嚢胞性疾患の体細胞変異による発症機構の解明
4	猪子 誠人	愛知県がんセンター研究所 腫瘍医化学部	中心小体の構造変化に根差した分化増殖への人的介入
5	入子 英幸	神戸大学大学院 保健学研究科 国際保健学領域 感染症対策分野	マラリア原虫のヘモグロビン輸送・代謝の分子基盤
6	植田 浩史	東北大学大学院 薬学研究科 医薬製造化学分野	有機合成を基盤とするエビゲノム創薬への挑戦
7	植松 智	東京大学 医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター 自然免疫制御分野	放射線障害における腸管常在性好酸球の役割
8	牛込 恵美	京都府立医科大学大学院 医学研究科 内分泌代謝内科学	糖尿病患者の家庭血圧管理と糖尿病合併症進展予防
9	浦田 秀造	長崎大学 熱帯医学研究所 新興感染症学分野	構造に基づく新規抗エボラウイルス化合物の探索
10	浦野 友彦	東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学講座	ロコモティブ症候群における新規診断法の開発
11	太田 訓正	熊本大学大学院 生命科学研究所 神経化学分野	乳酸菌由来物質による癌細胞リプログラミング機構
12	小川 正晃	自然科学研究機構 生理学研究所 発達生理学研究所 認知行動発達機構研究部門	不確実な報酬に惹き付けられる神経機構の解明
13	小坂田 文隆	名古屋大学大学院 創薬科学研究科 細胞薬効解析学	視覚情報処理におけるアマクリン細胞の役割
14	落合 恭子	東北大学大学院 医学系研究科 生物化学分野	シグナル伝達を介した転写因子機能制御と疾患治療応用
15	笠木 伸平	神戸大学 医学部附属病院 臨床検査医学分野	免疫寛容誘導による自己抗原特異的免疫抑制療法の確立
16	片山 義雄	神戸大学 医学部附属病院 血液内科	ビタミンDを標的とした骨髄増殖性腫瘍の病態解明
17	香山 尚子	大阪大学大学院 医学系研究科 免疫制御学	Spi-C発現腸管ミエロイド細胞の分化機構解明
18	川内 敬子	甲南大学 フロンティアサイエンス学部 腫瘍分子生物学研究室	がんの物理的環境応答におけるアクチンとp53の役割
19	小出 隆規	早稲田大学 先進理工学部 化学・生命化学科 生物分子化学研究室	3重らせん構造を骨格とするペプチド創薬
20	小松 紀子	東京大学大学院 医学系研究科 免疫学	新規T細胞重集団を標的とした自己免疫疾患の創薬開発
21	匂坂 敏朗	神戸大学大学院 医学研究科 生理学・細胞生物学講座 膜動態学分野	ヘアピン型タンパク質の膜挿入装置の同定と膜挿入病
22	佐藤 莊	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 自然免疫学	疾患特異的M2マクロファージの機能解析
23	宍戸 恵美子	名古屋大学大学院 医学系研究科 精神医学分野	動作時眼球運動の個人差と発達障害との関係
24	柴 祐司	信州大学 医学部附属病院 循環器内科	移植免疫寛容型サルを用いたIPS細胞による心筋再生
25	鈴木 亮	名古屋市立大学 大学院 薬学研究科 生体超分子システム解析学	マスト細胞と抗原親和性特異的浸潤細胞のクロストーク
26	宗 孝紀	東北大学大学院 医学系研究科 免疫学分野	TRAF5とZDHHC15によるT細胞制御機構
27	千葉 奈津子	東北大学 加齢医学研究所 腫瘍生物学分野	BRCA1結合分子OLA1の中心体制御能と発がん
28	津田 誠	九州大学 大学院 薬学研究院 ライフィノバージョン分野	ATPによる痒みの神経メカニズムの研究
29	豊島 文子	京都大学ウイルス研究所 細胞生物学研究部門 構造形成学分野	がん細胞のステロイドによる中心体制御機構の解明
30	中台(鹿毛)枝里子	大阪市立大学 複合先端研究機構	浸透圧ストレス応答におけるグリア/ニューロン機能
31	中村 肇伸	長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部 アニマルバイオサイエンス学科 エビジェネティック制御学研究室	全能性細胞で高発現するKlf17の機能解析
32	西山 功一	熊本大学 医学部附属病院 循環器予防医学先端医療 寄附講座	血管新生の新しい解析系の開発としくみの理解

33	西山 伸宏	東京工業大学 資源化学研究所 高分子材料部門	がんの特異的代謝に着目したがん標的化システムの構築
34	任 書晃	新潟大学大学院 歯学総合研究科 分子生理学分野	加齢性難聴の克服に資する内耳イオン動態の包括的解析
35	畠山 淳	熊本大学 発生医学研究所 脳発生分野	霊長類の大脳皮質が大きくなった機構の解明
36	濱島 義隆	静岡県立大学 薬学部 医薬品創製化学分野	カルボキラート触媒によるオレフィンの不斉フッ素化
37	林 崇	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 病態生化学研究部 細胞生化学研究室	精神疾患原因遺伝子による興奮性シナプスの機能制御
38	深田 優子	自然科学研究機構 生理学研究所 細胞器研究系 生体膜研究部門	シナプス機能障害における自己抗体の探索と病態解明
39	藤田 雅代	東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野	ドーパミン非依存的な運動制御メカニズムの解析
40	古屋敷 智之	神戸大学大学院 医学研究科 薬理学分野	ストレスにおける神経グリア相互作用の分子実体の解明
41	星野 幹雄	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 病態生化学研究部	自閉症および限局性皮質異形成の分子遺伝学的研究
42	堀 正士	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育心理学教室	パーキンソン病患者家族の介護負担感に影響する要因
43	丸山 貴司	岐阜大学大学院 医学系研究科 細胞情報学	核内IκBファミリー分子による多発性硬化症の制御
44	南 敬	東京大学 先端科学技術研究センター 血管生物学	血管内皮活性化制御の分子機構システム解析
45	宮塚 健	順天堂大学大学院 医学研究科 代謝内分泌内科学	糖尿病再生医療の実現に向けたβ細胞新生機構の解明
46	宮成 悠介	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 核内ゲノム動態研究部門	核内クロマチン動態を制御する因子の同定
47	村上 智彦	大阪大学大学院 歯学研究科 生化学教室	骨軟骨疾患と炎症の慢性化
48	谷内江 望	東京大学 先端科学技術研究センター ゲノムサイエンス分野	高速タンパク質インタラクトーム同定技術の開発
49	横田 浩章	光産業創成大学院大学 光産業創成研究科 光バイオ分野	DNA修復機構の蛍光1分子イメージング
50	渡辺 匠	微生物化学研究会 微生物化学研究所 有機合成研究部	がん-間質相互作用に働く天然物の生物有機化学的研究

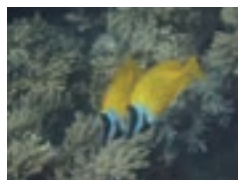
平成26年度（第46回）海外留学補助金交付者一覧

テーマ：生命科学領域（10名）

（五十音順・敬称略）

No.	氏名	所属機関（交付時）	研究テーマ	留学先
1	井原 涼子	東京大学大学院 医学系研究科 神経内科学	超早期アルツハイマー病の自然経過と修飾因子の探索	ワシントン大学セントルイス校
2	國本 博義	慶應義塾大学 医学部医学科 血液内科	忠実度の高いヒト白血病モデルによる新規治療法の創成	スローンケタリング記念がんセンター
3	春原 光宏	東京大学 医学部附属病院 呼吸器内科	肺上皮の分化及び修復過程の異常に関する機序の解明	南カリフォルニア大学
4	住田(今井)光穂	仙塩病院	癌の転移における微小環境の役割	サンフランシスコ州立大学
5	多田 智	大阪大学 微生物病研究所 分子免疫制御分野	遺伝子改変幹細胞移植による筋萎縮性側索硬化症治療	フランス国立保健医学研究所
6	塚原 達也	東京大学大学院 理学系研究科 生物科学専攻	嗅覚刺激に対する行動の報酬系依存的調節の神経基盤	ハーバード大学医学部
7	恒松 雄太	静岡県立大学 薬学部 生薬学分野	細胞内天然物発現法による新規遺伝子治療の開拓	ライプニッツ天然有機化合物研究所
8	中島 江梨香	The University of Chicago Department of Chemistry Organic Chemistry	チューブリアクターを用いた環境に優しい酸化反応開発	シカゴ大学
9	光石 陽一郎	東北大学大学院 医学系研究科 呼吸器内科学分野	非喫煙者肺癌の生物学的事象の解明	ダナファーバー癌研究所
10	森川 洋匡	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学	1細胞単位の解析に必要な技術の開発とその臨床応用	カロリンスカ研究所

活動風景 選考委員会



2) 研究報告会

平成25年度（第45回）研究助成金交付者52名による研究報告会を、平成26年10月18日東京・丸の内 日本工業倶楽部にて開催しました。1名が海外学会出張のため欠席されましたので研究発表者（口頭発表者）は51名でした。本財団では、この報告会を「研究者ご本人と選考委員との議論の場」と位置付けていることから代理発表は認めていません。そのため、欠席者1名からは、事前に理事長宛てに研究報告書を提出していただきました。なお、必要に応じて、理事長による欠席者へのヒアリングも実施しています。

研究報告会風景



第45回 研究報告会	
※日 時	2014年10月18日(日) 11:00~17:30
※場 所	日本工業倶楽部 東京都千代田区丸の内1-4-6 TEL: 03) 3281-1711
※報告料	2,000円(税別)
※口頭発表	第1日 10:00~16:01 第2日 11:10~16:22 第3日 10:10~16:22
※聴衆発表	第1日 13:00~13:20
※懇話会	第1日 13:20~13:30
※夕食会	第1日 16:30~17:30

※特別発表のPC発表者発表枠	
1. 特別発表枠A	特別発表枠Aの発表者は、特別発表枠Aの発表枠内で発表を行う。
2. 特別発表枠B	特別発表枠Bの発表者は、特別発表枠Bの発表枠内で発表を行う。
3. 特別発表枠C	特別発表枠Cの発表者は、特別発表枠Cの発表枠内で発表を行う。

研究報告会プログラム

3) 表彰

i) 最優秀理事長賞

平成26年10月18日開催の研究報告会で優れた研究成果を発表した研究者2名（口頭発表を聞いた選考委員による投票により、各発表会場から1名ずつ選ばれる）に最優秀理事長賞として表彰状と副賞（1件100万円、総額200万円）を後日授与しました。

第45回最優秀理事長賞2名（1件100万円）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
中川 勇人	東京大学大学院 医学系研究科 消化器内科	炎症・ストレスによる多重並行ヒットとNASH発癌
西田 基宏	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター	活性硫黄を標的とした心血管病予防治療法の開発



中川 勇人 先生



西田 基宏 先生

ii) 竹中奨励賞

平成26年10月18日開催の研究報告会での発表者の中から、今後の活躍が期待される若手研究者1名（口頭発表を聞いた選考委員の投票により決定）に竹中奨励賞として表彰状と副賞（50万円）を後日授与しました。

第3回（平成26年度）竹中奨励賞（1名）

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
丸山 健太	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター	破骨細胞融合阻害活性を持つ液性因子の同定



丸山 健太 先生

iii) 優秀発表賞

平成26年10月18日開催の研究報告会での、研究成果発表者の相互投票をもとに担当選考委員による推薦、選考委員長と学術委員会長による確認を経て、すぐれた研究発表3件を選び、当日発表しました。表彰状は後日お届けしました。

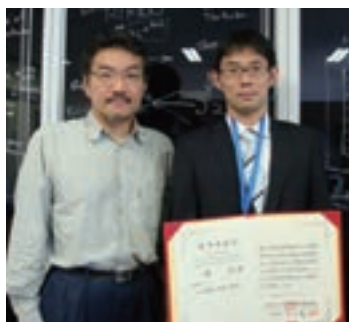
第1回（平成26年度）優秀発表賞（3名）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
高橋 弘雄	奈良県立医科大学 先端医学研究機構 脳神経システム医科学分野	嗅覚を用いた脂質代謝異常の治療法の開発
林 悠	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構	レム睡眠の意義の解明
松井 広	東北大学大学院 医学系研究科 新医学領域創生分野	脳虚血神経障害発生メカニズムの解明と光制御の可能性



高橋 弘雄 先生



向かって右が林 悠 先生。
左は筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構拠点長 柳沢正史先生



松井 広 先生

4) 講演

i) 特別講演

研究報告会では毎回、昼食後の時間帯に本財団役員による特別講演を行っております。今回は、本財団理事である熊本大学大学院 生命科学研究部 小川久雄教授による特別講演「日本における循環器疾患治療のエビデンス」を実施しました。研究報告会にご出席の多くの研究者がご聴講くださいました。



ご講演中の小川久雄先生



会場の様子

ii) 竹中奨励賞受賞講演

特別講演に引き続き、第2回（平成25年度）竹中奨励賞受賞者である熊本大学大学院 自然科学研究科 井手上 賢先生による受賞講演を行いました。受賞対象となったご研究について、その後の進展を含めてご紹介いただきました。質疑応答ののち、研究会にご出席の多くの研究者からの盛大な祝福の拍手により、その栄誉を称えました。なお、本賞副賞の資金をご寄付くださった竹中登一氏もこの講演会に参加してくださいました。



前年度の授与式



ご講演中の井手上 賢 先生

5) 交流会

研究報告会後に交流会を開催し、研究発表者、財団役員らが一同に会し、発表内容に関する議論や日本の科学技術研究の方向性など、色々な話題で情報交換していただきました。交流会の最後に優秀発表賞受賞者を発表し、受賞者にはご挨拶を頂きました。会場からの盛大な拍手をもってその栄誉を称えました。



優秀発表賞受賞者を発表される門脇 孝選考委員長



ご挨拶される後藤由季子学術委員長

6) 第44回助成研究報告集

平成24年度（第44回）研究助成金、海外留学補助金を受けて実施された研究の成果をまとめた報告集「第44回助成研究報告集」を、平成27年3月に刊行しました。論文化や知的財産権などを考慮して、発表をこの時期まで遅らせています。

なお、平成19年度 第39回以降の研究報告集は、本財団ホームページの「その他」→「刊行物」サイトにて電子ブック形式で公開しています。下記のURLよりアクセスしてみてください。

<http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html>



3 会計報告（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

1) 貸借対照表

(単価：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	16,413,822	22,163,682	△5,749,860
流動資産合計	16,413,822	22,163,682	△5,749,860
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
現金預金	353,473,234	357,225,509	△3,752,275
投資有価証券	2,962,952,002	2,430,930,896	532,021,106
基本財産合計	3,316,425,236	2,788,156,405	528,268,831
(2) 特定資産			
1) 研究助成資金	593,528,828	643,511,563	△49,982,735
現金預金	87,189,233	129,352,454	△42,163,221
投資有価証券	506,339,595	514,159,109	△7,819,514
2) 竹中奨励賞資金	8,506,226	9,006,226	△500,000
現金預金	8,506,226	9,006,226	△500,000
3) 公益目的事業資金	388,089,292	371,290,970	16,798,322
現金預金	388,089,292	371,290,970	16,798,322
4) 法人会計資金	10,000,000	10,000,000	0
現金預金	10,000,000	10,000,000	0
特定資産合計	1,000,124,346	1,033,808,759	△33,684,413
(3) その他固定資産			
什器備品	7,760,745	6,166,125	1,594,620
減価償却累計額	△2,890,405	△1,657,180	△1,233,225
その他固定資産合計	4,870,340	4,508,945	361,395
固定資産合計	4,321,419,922	3,826,474,109	494,945,813
資産合計	4,337,833,744	3,848,637,791	489,195,953
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	46,001	1,543,806	△1,497,805
流動負債合計	46,001	1,543,806	△1,497,805
負債合計	46,001	1,543,806	△1,497,805
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	1,884,879,584	1,584,223,199	300,656,385
(うち基本財産への充当額)	884,755,238	550,414,440	334,340,798
(うち特定資産への充当額)	1,000,124,346	1,033,808,759	△33,684,413
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,452,908,159	2,262,870,786	190,037,373
正味財産合計	2,431,669,998	2,237,741,965	193,928,033
負債および正味財産合計	4,337,787,743	3,847,093,985	490,693,758
負債および正味財産合計	4,337,833,744	3,848,637,791	489,195,953

2) 正味財産増減計算書

(単価：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	152,642,429	175,377,573	△22,735,144
(2) 経常費用			
①事業費	152,454,849	153,407,829	△952,980
②管理費	11,218,842	9,077,555	2,141,287
経常費用計	163,673,691	162,485,384	1,188,307
評価損益等調整前当期経常増減額	△11,031,262	12,892,189	△23,923,451
基本財産評価損益等	200,745,000	57,240,000	143,505,000
評価損益等計	200,745,000	57,240,000	143,505,000
当期経常増減額	189,713,738	70,132,189	119,581,549
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益計	323,635	0	323,635
(2) 経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	323,635	0	323,635
当期一般正味財産増減額	190,037,373	70,132,189	119,905,184
一般正味財産期首残高	2,262,870,786	2,192,738,597	70,132,189
一般正味財産期末残高	2,452,908,159	2,262,870,786	190,037,373
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	90,020,000	90,040,000	△20,000
基本財産運用益	12,591,180	11,691,810	899,370
特定資産運用益	2,161,948	4,093,992	△1,932,044
基本財産評価益	334,340,798	95,333,220	239,007,578
一般正味財産への振替額	△138,133,906	△160,962,167	22,828,261
雑損失	△323,635	0	△323,635
当期指定正味財産増減額	300,656,385	40,196,855	260,459,530
指定正味財産期首残高	1,584,223,199	1,544,026,344	40,196,855
指定正味財産期末残高	1,884,879,584	1,584,223,199	300,656,385
III 正味財産期末残高	4,337,787,743	3,847,093,985	490,693,758